

マンション自治会が取り組む琵琶湖の水草対策



エコフォスター茶が崎
阪東太郎さん



大津市立皇子山中学校
堀雅喜さん

琵琶湖で異常繁殖している水草が問題となっています。当財団も琵琶湖の水草除去を行っておりますが、市民レベルで対策を実行している団体が現れました。岸边に流れている水草を除去する活動に取り組んでいる団体「エコフォスター茶が崎」のメンバーにお話を伺いました。

—いつごろからどのように活動を始めましたか？

阪東 本格的に始めたのは平成19年12月頃、マンション周辺のゴミ拾いから始めました。私がこのマンションに越してきてからです。

引越しの際、妻と「琵琶湖に面して景色がいい場所だね」と話していて、ベランダに出て絶句しました。この景色です。（左下写真参照）

遠目には草が伸びていてよく分かりますが、駐車場は放置車両やタイヤなどゴミだらけでした。湖畔にも打ち上げられた水草や、すさまじい量のゴミが放置されていました。「ほんまにここに引越してくるの？」と妻がつぶやきました。



「引越す」と私は言いました。「ゴミくらいならなんとかなるだろう。これだけ琵琶湖が近くて良い場所はその間にない」

越してからしばらくしてゴミ拾いを始めました。当初は一人でやっていた。まずは放置車両の件で滋賀県庁に何度も足を運ぶうちに、助成金や淡海環境保全財団のことを知りました。

現在、マンション住民からメンバーを募り、住民の約1割弱にあたる15家族37名の方から賛同をいただき月一回マンション沿いの琵琶湖畔でゴミ及び水草の除去作業に取り組んでいます。

—水草除去について詳しく教えてください。

阪東 ゴミがなくなり綺麗になったから、今度は水草が岸边に押し寄せて水遊びができず、もったいないと水草を捕るようになりました。

水草は二酸化炭素を吸収して光合成し成長しますので、琵琶湖に酸素を還元してくれています。しかし、根を離れ浮遊し岸边に打ち上げられた水草は、放置すると腐敗し悪臭と二酸化炭素を排出します。そうなる前に回収処理します。最終的には大津市の美化活動に伴うごみ回収のゴミに出します。埋め立て処理になると聞いています。しかし、出来る限り河川敷の堆肥にするようにしています。乗用草刈機などで裁断して地面に浸透させています。

以前はがたがた道だった場所が、今では芝が生えています。

環境に少しでも興味を持ってもらうと子どもたちにもこの仕組みを教えたいです。

子どもたちをメンバーに迎えての作業では、水草は一回300キロくらいしか回収できないのですが、目先の成果よりも子どもたちの将来を考えています。大人二人が本気で活動を行うと、一回1トンくらいは回収できます。

—子どもが参加したのはいつからですか？

阪東 平成20年2月くらいからです。

この活動を始める少し前に、近所の子どもがあるときふと言いました。

「おっちゃん、何かやることない？暇や」

最初はひよんなことから始まりました。ある日曜日の夕方、我が家に子どもたちが集まってテレビゲームをしていました。

「テレビゲームしているくらいなら、みんな、ゴミ拾い行かへんか」

と私が声をかけました。みんなが「行く」

とついてきてくれました。このときは狙いも何ありませんでした。

—近所のおじさんに誘われても、子どもにとってはテレビゲームの方がいいんじゃない？

堀 最初は「面白そうや」と思っていていきました。普段から阪東さんがゴミ拾いしている姿をマンションの廊下などから目にしていて最初は「何してんの、何でゴミ拾っているの？」

と思ったのですが、地球温暖化の問題なども聞いていたので、「だからかな」と、だんだん「かっこいい」と感じるようになりました。それで阪東さんに誘われて、地球のためにせなあかんと思いました。

—「ゴミや水草がある場合、区役所や県など行政に苦情を訴えることはして、自ら拾おうとアクションを起さされる方は少ないと思えますが。」

阪東 「やりたければ、自分でやればいいんや」と単純に思っていました。

数年前、同じマンションで「茶が崎の環境を守る会」という団体が、ゴミの清掃活動を行っておられました。結局この団体は代表の方が引越され解散されましたが、この姿を知っていたので最初からそう思っていました。

—活動中での問題点をお聞かせください。

阪東 月一回活動していますが、なかなか集まってもらえないことです。呼びかけは「暇なら来てな」と言うようにしています。ボランティアなので強制はしない。今回のように取材が入る場合は絶好の集まっていたくチャン

スです。会社ではないので、地道にマイペースでやります。モチベーションのキープが課題です。

それから行政の腰があまりにも重い。私たちは湖面に漂う水草を回収するために小型船を一艘所有しています。湖底に沈んでいた船を引き上げて修理したものです。

当初、漁港に泊めさせてもらっていたのですが、管理者が代わり「エコフオスターさんだけ泊めるわけにはいかない」と言われ、「うちは遊びで使っているわけではないので、何とかお願いできないか」と頼んだのですが、「ここは漁業施設なので困ります」とのこと。

困り果てていたところ、旅亭紅葉さんから「水草の除去に使われるならどうぞお泊めください」と言っていたのでした。この申し出がなければ船を手放すところでした。子どもらにとつて船上での活動は大人気で、楽しみの一つなのです。

—活動をやっていて良かったことはありますか？

堀 綺麗にした浜でみんなが遊んでいるのを見るときうれしい。大人になってもこのような活動を続けたいです。

阪東 ゴミ拾いすると一時的にゴミが増えます。しかしゴミ拾いをする事で、ゴミを捨てなくなり、長い目で見るとゴミの減量化になる。それは地球温暖化防止になります。この活動に参加

している子どもは、きつと一生ゴミをその辺に捨てることはないでしょう。

堀君は子どものコアメンバーの一人です。小さい子の面倒見もいい。やる気のない大人より役に立ちます。実は、彼には20歳になったら自治会長をやってもらおうと考えています。普通、自治会長といえば60歳、70歳の方がやるものですが、20歳で自治会長をやった人なら、就職の際、私が社長だったら即採用します。彼は現在13歳なので7年後です。まずは副会長を1年やらせて仕込んで…などと考えています。

—団地などで住民の方がどのようにまとまっていられるか興味があります。阪東さんの場合、一人でやり始められたので動かすのは大変だったのでは？

阪東 それは大変でした。水草は、マンション住民の皆さんにとつても虫が飛んでくるなど、やっかいな問題です。ので、理解はあると思います。逆に、何も問題がないとやれてないかもしれませぬ。住民が一つの同じ問題意識を持って取り組めるのは重要です。